

お客様の「ありがとう」を大切に

代表取締役 齊田 隆治 氏

明治時代の油紙製造に始まり、現在ではプラスチック、ビニール製品の加工販売を手掛ける齊交株式会社。昨今の厳しい経済情勢の中、四代目の齊田隆治社長は三社（社会・社員・会社）最善を目指し、決して基本をおろそかにせずプラスチックのプロ集団として事業を展開しています。

和傘の油紙製造からプラスチックへ

明治25年の創業時は、和傘（蛇の目傘）用の油紙を製造していました。美濃から仕入れた和紙に油を塗り、長良川の河川敷で乾燥させ、切り揃え、販売していました。その後、昭和23年頃からはビニール



▲雑貨類加工品

▶テントハウス

ルの加工が中心となり、財布や農業用ハウスの被膜（ビニールハウス）を作り始めました。平成に入りプラスチック総合へと転換し、現在に至ります。当社のプラスチック製品は身近

老舗の四代目に

当社は代々長男が跡を継いできましたが、私には特にその意思はありませんでしたので、大学卒業後はプラスチックの商社に勤務していました。しかし、先代の高齢

化に伴い跡を継ぐことを決意し、昭和61年に入社しました。入社後は前職での経験を活かして、営業で駆け回り、多くのお客様を獲得することが出来ました。こうしたお客様の中には現在でも取引のある方が多数おられ、大変感謝しています。

三社最善で

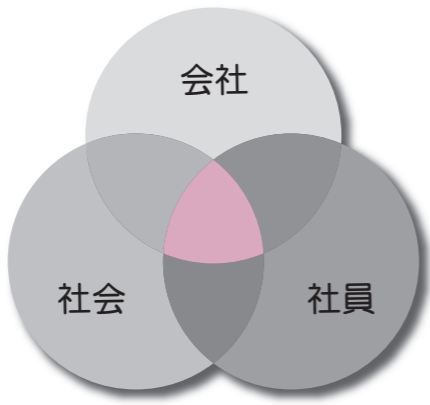
自創経営を目指す

実情でした。私は社長に就任するにあたって、各ノウハウを継承しつつ会社として生き残っていくためには、社員のベクトルを同じ方向に向け、一つのものに向かっていく必要があると感じました。

えを忘れることなく、社員一人一人が努力を続けています。これからも、長年に亘って築き上げてきた技術をお客様のニーズに合わせて提供し、お客様から「ありがとう」と言われる会社であり続けたいと思っています。

当時のわが社は、加工技術や営業等のノウハウは社員個人が持っている、いわば個人商店の集まりのような組織でした。社員が長年培ってきたノウハウも、退職してしまうとそこで途絶えてしまい、会社には何も残らないというのが

平成8年、社長に就任した私は、社会・社員・会社をベストマッチさせる「三社最善」をスローガンに掲げました。すると、徐々に社員の意識も変わっていききました。年齢や職種に関係なくコミュニケーションを取り、チームワークで乗り切ろうという姿勢が見られるようになったのです。現在では社員が自ら目標を立て、その目標を達成するため仕事に取り組んでいます。自らが自らを創る、これが私の目指す「自創経営」の姿であると思っています。



齊田社長が掲げる三社最善の図



◀ 経営について社長の理念を語る齊田社長

▶ 齊田社長の趣味は読書。ビジネス書から歴史書まで分野は様々、月に3~5冊を読む



今、非常に厳しい経済情勢であると言われていますが、「お客様にいかにお役立てできるか」との考

Company Data

齊交株式会社

本社
住所 ● 岐阜市金園町3-8
電話 ● 058-265-6321
事業内容 ● プラスチック製品の製造販売
創業 ● 明治25年
HP ● <http://www.e-saikoh.co.jp/>
E-mail ● gifu@e-saikoh.co.jp